

かぎかっこ“「」”型 公共交通案内所

ユニバーサルデザインのバス停について障害者福祉支援団体と協働で考えていくと、「」（かぎかっこ）型にたどり着きました。

バス停平面図(青)と動線(オレンジ)	動線と課題
	<p><開放型></p> <p>利用時の動線としてはスムーズ</p> <p>4方向とも壁がないため、雨・風よけとしては不十分</p>
	<p><箱型></p> <p>雨・風よけには有効であるが、夏場の暑さ対策としてエアコンが必要となる</p> <p>扉の開閉が必要 車いす利用者は、バス停内で転回する空間が必要となる</p>
	<p><コの字型></p> <p>【車道に対して閉じている形状の場合】 →利用者はバスが来た時に回り込む動線となる</p> <p>【歩道に対して閉じている形状の場合】 →利用者は車道側からバス停内へ回り込む動線となる</p> <p>3方向しか壁がないため、雨・風は防げる方向と、防ぐことが出来ない方向が出来る、不十分</p>
	<p><袋小路型></p> <p>上段のコの字型に比べ、バスへの動線がスムーズ 雨風に対して、4方向に壁を持つため防ぐことが出来る</p> <p>ただし、<u>電動車いすが2台並ぶ場合は、幅が必要となる</u></p>
	<p><かぎかっこ“「」”型></p> <p>袋小路型よりスムーズな動線が確保されている</p> <p>雨風に対して、4方向に壁を持つため防ぐことが出来る</p> <p>電動車いすが2台同時利用でも支障がない</p> <p>→この形状が最適解となった。</p>

特筆すべき事項

○法律や条例をクリアするだけでなく、障害者団体とともにすることで得た最適解
公共交通案内所整備工事において、障害者福祉支援団体との協働ですべての利用者が使いやすいものとするための打ち合わせを行った。設計段階においてユニバーサルデザインについて考慮することは公共施設については当然ではあるが、障害者に意見を聞くことは、ヒアリング方法や時間の点から難しく、法律や条例をクリアすればよいと考えてしまいが現状である。今回、設計・施工段階における、障害者団体を巻き込んだ公共交通停留所のユニバーサルデザインについて実践した。

事業目的

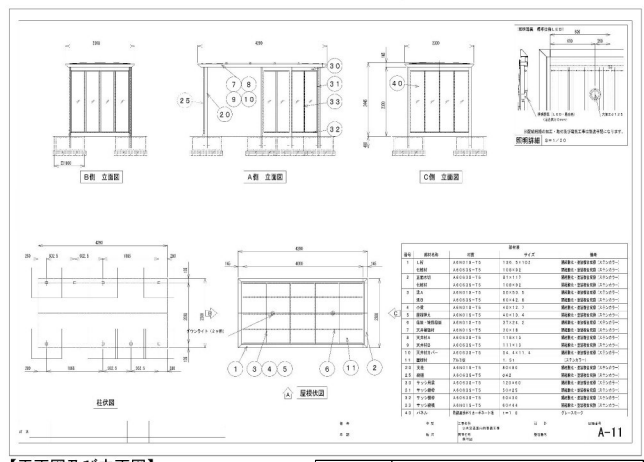
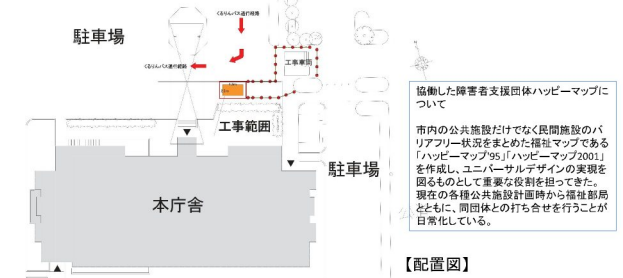
市内を巡回するコミュニティバスのバス停留所機能を中心とした公共交通案内所を市役所敷地内に整備することとなった。整備前においては、市役所のエントランス部分のキャベアーにより雨を防ぐことは可能であったが、壁がなかったためからの雨を防ぐことはできなかった。また、冬場は北西からの風が強く、夏場は日よけがなく、夏場の照度が足りぬ状況であったため、待合の場としては快適な環境とはなっていなかった。今回の整備工事においては、これらの改善が求められた。

成果

- (1) 特殊な建材を使用することなく、ユニバーサルデザインの向上を図ることが出来る
障害者福祉支援団体から設計段階から参加することにより、障害者の利用を考慮した施設とすることができる。また、条件を整えることで特別な建材や特注品を用いることなく対応することが可能となった。
- (2) 発注者と利用者との共通意識を得ることが出来る
発注者と利用者である障害者福祉支援団体で検討を行うことにより、施設の利用について共通認識を得ることができた。特に現場でのモックアップ検討では、盲導では読み取りやすい車道との距離が指摘され、配置の変更をおこなった。結果として、竣工前検査において利用に関する指摘事項は見つからなかった。
- (3) 過剰な施設整備の抑制
障害者と施設水準を協議することは、過剰な要求によりコスト増加や予算超過時の対応などデメリットを考えがらであるが、相互理解がされることにより本当に必要なものを整備したユニバーサルデザインとなる。

ユニバーサルデザインに必要なこと=敷地や条件、利用者ニーズを読み解くこと

今回の公共バス停留所においては「」（かぎかっこ）型が最適解となった形だけでなく設計施工のユーザー参加プロセスが特徴



打ち合せ時期と内容	打ち合せの様子		
<p>第1回障害者福祉支援団体との打ち合わせ「レイアウト検討」 2016年12月</p> <p>袋小路型と、かぎかっこ型の2つについて実際のスケールがわかるように簡易モックアップとして会議室椅子を利用して、車椅子の動線等の検討を行った。動線と課題を検討した結果、かぎかっこ型とした。</p>			
<p>第2回障害者福祉支援団体の打ち合わせ「現地での配置検討」 2017年2月</p> <p>第1回の検討により決定したかぎかっこ型を現地にコンパネによりモックアップの作成を行った。現地における車椅子の動きなどのシミュレーションを再度行った。ここでは電動車いす2台がスムーズに利用できることが確認された。また、バス停内におけるすれ違い幅や車道との取り合いなど確認し、当初設置予定箇所より、南側に200mm移動させることとなった。</p>			
<p>第3回障害者福祉支援団体との竣工前検査 2017年3月</p> <p>設置完了後に竣工検査の一部として、障害者福祉支援団体による現場確認を行った。車椅子利用者の動線確認、視認性の確認とサインの設置位置の確認を行った。この確認はあえて雨天時に行うことにより、濡れた洗い出しに努めた。床面のレンガに水がたまる箇所が見つかったため、補修を行うこととした。その他、車いす利用者にとって不具合を生じる指摘事項はなかった。</p>			

